



忘れられないフィリピンのある島での思い出

～ごめんね、本当は最初から6個あったのよ・・・飴は～

中部学院大学短期大学部
幼児教育学科 教授 沖中 秀子

もうすぐ夏休み。今年も学校からフィリピン研修（フィリピン・ミンダナオ国際大学との交流・研修）に行かせていただけることになりました。今年で4回目です。どうして毎年？ 何かいいことでもあるの？・・・などいろいろな問いかけを受けます。そうです。貧しい地区にある幼稚園を訪問して子ども達と一緒に遊んだり、老人ホームでお年寄りの方々のくらしの様子を見学したり、国際大学の学生さんの日本語授業に参加させていただいたり・・・と、現地ならではの交流・研修を体験・体感する中で、前回気付かなかったこと、見えなかったものが鮮明に浮き上がってくるのです。そういった感覚が大好きで訪問の回数を重ねています。

さて、ここで皆様にお話ししたいことがあります。私の大切にしているフィリピンの思い出のひとつです。一昨年のこと、研修2日目を迎えた私たちは、イスラレッタビーチと言うとても美しい海岸線が続く島へ行きました。バーベキューをして昼食を済ませた後、その島の奥にある小さな村を尋ねて良いという許可をいただき、私は早速足を踏み入れました。と、いきなり子どもたちがあちこちの木陰から出て来ました。私が珍しく写ったのでしょうか、初めは警戒していたもののだんだんと近づいて来ました。子どもが大好きな私は、ちょっと脅かしてやろうと思い、大きな木の葉を拾い目と口だけ穴を空けて「わー！！」と飛びかかりました。すると同時に「きゃ～っ」と、悲鳴をあげ、子どもたちは腰を抜かしてその場に座り込んでしまったのです。5～6人いたでしょうか、くりくり頭に裸足の男の子達です。すっかり意気投合し、大声で笑い合いその後もかくれんぼをして遊びました。言葉は全く分かりませんが「遊びは世界共通語」です。何度繰り返して遊んだことでしょうか。飽きることを知らない子どもたちです。はっと我に振り返りバイバイと別れの合図をすると、1人、2人・・・と、顔が曇って行きました。（こんな時がとても辛いです。）その時、目を少し遠くへ移したところに4年生くらいに見える女の子が優しい眼差しで私を見ていました。彼女も小さい子らに混じって鬼ごっこがしたかったのかも知れないと思い、「おいでおいで」と、手招きするとにこっと満面の笑顔をしたえ、走ってきました。しかし、遊んでいる時間はありません。手を取って「ごめんね、もう帰らなきゃ・・・」と、気持ちを伝えると分かってくれたようで、首を縦に振ってくれました。そうだ！！お別れにこれをみんなにあげようと、カバンの中に飴が有ることに気付き、一人一人に渡そうとしました。子どもたちは何か貰えるぞと、分かったようですまますにっこりし、近寄ってきました。ところがその瞬間、むやみやたらに物をあげてはいけません。何でも手を出せば物が貰えるという習慣が身に付くと物乞い上手になり、自分で働かずとも人にねだれば良いという生き方が身に付いてしまうからと、固く注意を受け約束していたことを思い出してしまったのです。しかし、見ず知らずの他国の私と鬼ごっこに興じてくれたあどけない子どもたちを前にしたとき、約束は守るべきか否か葛藤です。暫く沈黙が続いた後、私はある方法を考えました。カバンの中の飴は6個。子どもの数も6人。全員にスムーズにあげられるはずですが、最後の1人に来たとき、「あっ1個足りないどうしよう」・・・と、彼らの反応を見て、対応を考えることにしたのです。そこで、計らい通り、差し出された小さい手のひらに一つ一つ飴をのせていきました。すると、先程の女の子が最後の所で手を出して待っていました。この時、勿論カバンの中には1個飴は残っていたのです。さあ、子どもたちはどう出るのか・・・計らいをしている私の心臓の鼓動の高鳴りが身体中に響きます。（こんなことをしてごめんね、ごめんねと言うように）

でも、みなさん、彼女はこうしたのです！「わたしはいいの（貰えなくても）、小さい子達が貰えたから・・・」とでも言うように目にうっすら涙をためて手のひらを左右に振り、要らない要らないと私に合図をしたのです。私は張り裂けんばかりになり、「あっ、ひとつあった！」と、さも発見したかのようにカバンから飴を取り出し、彼女の手のひらに載せました。心を込めて載せました。その時のとびっきり嬉しそうな彼女の笑顔は今も私の臉に焼き付いています。そして日本語で「ごめんね、ごめんね」と心から詫言いました。子どもたちは私の計らい事なぞ知るよしもありません。大人数で質素に過ごす日々のくらしの中で相手の気持ちが、分け合うことの大切さが誰に教わることがなくとも、自然に染み込んでいるのでしょう。

全員、日本の珍しい飴が貰えると、大喜びで村の奥へ奥へと消えていきました。何度も何度も振り返りつつ・・・。最後に遠くからあの女の子がこちらに向かって確かに会釈してくれたことを私は今でもはっきりと覚えています。

「約束」は守るべきでしょう。しかし、守り方・守らせ方があり、何よりも目の前の子らの心の「真」を信じ、「愛」ある対応をすることの大切さを教えられた出来事でした。さて、今年はどうな出会いがあるのでしょうか。フィリピン訪問4回目を感謝し、真摯に迎えたいものです。

「本当にごめんなさいね。最初から6個あったのよ、みんなの分の飴は・・・」

心豊かに大きくなあれ

7月20日「夏祭り」を 開催しました！



「夏祭り実行委員」の学生スタッフが中心となり総勢 150 名程の学生ボランティアと地域の自治会・各務原市内川島町の「やろまい会」・各務原市民謡保存会など地域の方々のご協力より今年も開催することができました。途中から大雨となりプログラムの変更もありましたが皆さんと共に楽しいひとときを過ごすことができました。ありがとうございました。



今年も手作りの
うちわを用意し
受付で配布しました



学生のパフォーマンスは途中からの大雨で、グローリアホールにて発表。エネルギッシュな舞台で大盛況でした！



開式では、地域の自治会長さん方を始め各務原市長・岐阜ソントクラブの皆さん・中部学院大学短期大学部学長など大勢の皆さんにお越しいただきました。



スタンプラリーで用意した「遊び広場」。ストラックアウト・水ヨーヨー・金魚すくい和太鼓体験などふれあいを楽しみながらどのコーナーも賑やかでした。

「ありがとう！バイバイまたね！」とお見送りのハイタッチは楽しかった時間の締めくくりです。



「学びの森フェスティバル」にて Let's dancing!

「ピーヒャラダンス（おどるポンポコリン）」を一緒に踊りませんか？



夏祭りの時にダンスサークルの「BLUE RIBBON」が踊ってくれた「ピーヒャラダンス（おどるポンポコリン）」。フロアにいた子どもたちも一緒になってリズムにのってました。そんな世代を問わず聞いたことのあるお馴染みのアニメソングを今度はみんなで一緒に踊りませんか？ラ・ルーラ内で何度か学生と一緒に踊る機会を設けます。

一緒に覚えて楽しく踊りましょう！



「赤ちゃんサロン」にて



0歳のお子さんと一緒に保護者の方が集うおしゃべり会「赤ちゃんサロン」の様子をお伝えします。

7月31日、参加は生後3か月から11ヶ月の赤ちゃん12組。

今回も「うちの子の今一番可愛いところ」を加えての自己紹介からです。「後追いが始まって大変ですが、私(ママ)を見つけてハイハイしてくるところがとっても可愛いです。」などと、わが子の可愛らしさを紹介するママの顔も素敵な笑顔で、この自己紹介が終わる頃には、全員緊張感もほぐれ柔らかい雰囲気です。

次は絵本の紹介を兼ねた読み聞かせ。今回は「きんぎょがいっぱい」「あーいいきもち」「でんしゃごっこ」の3冊でした。全員がママの膝に抱かれて絵本に集中します。「ホラ！〇〇ちゃん、あれニンジンだね」「あぁ きれいだね」など小さなママの優しい言葉が聞こえてきます。

そのあとは、身の回りのものを使っておもちゃを作りながらのおしゃべりタイムです。始めの話題は離乳食についてで「お薦めメニューは、炊き込みご飯。炊飯器に何でも入れて炊き込めばいいの。私も〇〇ちゃんのママから教えてもらったんだけど…」「食欲のない時でもバナナは良く食べるよ」といろいろな会話が飛び交いました。

また、初めて参加のママからの育児相談もあり「もう少しで寝返りが出来そうだけどこのまま見ていればいいのかしら？何かしてあげた方がいいの？」と素朴な質問が…。チョットだけ先輩のママたちから、数か月前のわが子の姿を思い出しながらいろいろな助言が返り和やかなサロンとなりました。

いろいろな他の赤ちゃんに触れ合うことにより、数か月後のわが子の様子が垣間見えたり、数か月前の子育てを振り返ったりといろいろ楽しそうです。

このサロンは、赤ちゃんのご機嫌と共に流れ解散ですが、気の合ったお友達同士や保育士とのおしゃべりはその後も続くそんな集いです。

よろしかったら一度参加してみませんか？



戸外デッキは大賑わい！



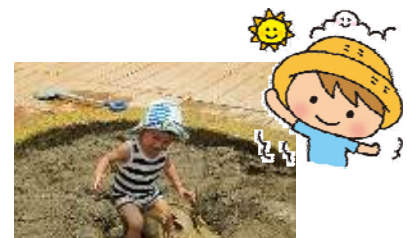
真夏のキラキラと輝いた太陽とセミの声。そんな戸外デッキを見つけるとほとんどのお子さんがママの手を引いてデッキへ。「(暑いから涼しい部屋の中で遊ぼうよ)」と本当は思いながらもやっぱり子どもの笑顔には勝てません。覚悟(?)を決めて戸外に出ると、そこはやっぱり元気なママたち。子どもたちと一緒に水遊びや泥んこ遊びを楽しんでいらっやいます。



ママも一緒に水遊び



ママも一緒に砂場で穴掘り



泥んこ水たまりへ「バシャーン！」



シャボン玉遊びも楽しいね



個々のタライやプールで水遊び





くら・ルーラ開設日 > 火・水・木・金・土曜日 (時間 10:00~16:00)



催しがあるときも ラ・ルーラ内では自由に遊べます。

9 月の予定						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4 11:00~ 移動図書館 (読み聞かせ)	5 12:50~ ランチタイム コンサート	6
7	8	9 12:50~ ランチタイム コンサート	10 げんき広場 10:45~11:30	11 10:45~ お母さんのための リフレッシュ講座	12 11:00~ 移動図書館 (読み聞かせ)	13
14	15	16 12:50~ ランチタイム コンサート	17	18 にこにこ広場 10:45~11:30	19	20
21	22	23	24	25 赤ちゃんサロン 10:30~11:30	26 9月の誕生会 12:30~13:00	27
28	29	30				

*毎日 11 時頃にお話しの時間があります。

*各サロン・子育て実践プログラム等、ラ・ルーラ利用料(保険料)にてご利用いただけます。
尚、各行事は定員 15~20 組、準備のため事前参加申込みが必要です。

*12 日~16 日ラ・ルーラ室内、環境整備等のためお休みです。

電話：058-375-3605 FAX：058-375-3609



9月の行事 * 内容紹介



4 日 移動図書館 ・読み聞かせ

図書館スタッフによる 本の紹介と読み聞かせ

10 日 げんき広場 (2~3 歳児対象)

布遊び & 作って遊べるおもちゃ作り

11 日 お母さんのためのリフレッシュ講座

布バック制作
(好みの布で2~3パターンの中からお好きなものを選んで作ります。)

18 日 にこにこ広場 (1 歳児対象)

親子ふれあい遊び (広いホールで遊びます。)

25 日 赤ちゃんサロン (0 歳児対象)

親子ふれあい遊び & 交流

26 日 誕生会

9月生まれのお友達を みんなで祝います

5・9・16・26 日 ランチタイムコンサート

吹奏楽部員(学生)による ミニコンサート

日時・内容は変更になることもあります。ご了承ください

